

JTAトピックス 2016年11月

14歳（中学3年生）の新星！

福島良菜（福岡筑紫野跆拳道クラブ）

第27回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会

最年少、最優秀選手賞 I T A 杯受賞！！

2016年11月26日（土）夜、格闘技の殿堂・後樂園ホールにおいて開催された第27回全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会において、福岡筑紫野テコンドークラブ所属の福島良菜（ふくしま・らな）が、出場した3種目（A級蹴武型、団体戦型、中学生女子無差別級組手）すべてにおいて優勝し、弱冠14歳にして最優秀選手賞 I T A 杯を受賞しました。日本テコンドー協会史上、最年少受賞です。



福島良菜は、小学校1年生の頃、イオン筑紫野テコンドークラブ（創設者・趙 哲来）に父・福島成勇（現福岡筑紫野テコンドークラブ長）と共に入門した第1期生。約9年間、日本テコンドー協会七大精神を涵養しながら日本跆拳道の稽古に励んできました。

中学進学後も部活は文化系にとどめ運動系は日本跆拳道一筋で、球技等の脇道にそれませんでした。学業も優秀で福岡県内の名門高校への進学がねらえる状況にあります。まさに福島良菜は、河明生宗師範が目指している日本跆拳道修行過程を通じた優れた非認知能力を涵養した「文武両道の青少年少女」の模範といえる優秀な門人です。

最優秀選手賞受賞を決めたのは、ハイレベルなA級蹴武型優勝（一般は2階級制でB級蹴武型も有り）です。本年度より、A級蹴武型は、難易度の高い新ルールが適用されました。福島良菜は、1回戦では、昨年度、全日本大会3位の高橋祐輔（高知跆拳道クラブ）を2回戦では、昨年度、全日本大会2位の渡邊智也（岡山大学体育会跆拳道部）を破り決勝戦に進出しました。

A級蹴武型決勝戦は、後楽園ホールのリングに上り、自由型を演武します。演武写真で明らかなように、蹴美性に秀でた素晴らしい演武でした。一人の選手でこれほど複数の華麗な蹴り技の写真が撮られたのははじめのことです。しかも純真かつ爽やかな光で輝いていました。



最大のライバルは、4連覇を狙う植田博和（東京江東跆拳道クラブ）。  
両者の判定は次の通り。

主審 河 明生	2位の上位（蹴美性を評価）・福島良菜、2位の下位・植田博和 （よって植田は実質3位となる）
副審 盛島一盛	1位・植田博和、2位・福島良菜
副審 妹尾将吾	1位・福島良菜、2位・植田博和

副審の評価がわれましたが、  
蹴武型創始者・河明生宗師範が蹴美性に秀でていた福島良菜を「2位の上位」と判定しており、勝者としました。  
なぜなら、日本跆拳道は蹴美（華麗で美しく力強い蹴り）を極める武道だからです。

河明生宗師範は、福島良菜に薫陶を与えました。

「驕らず高ぶらず、謙虚な気持ちを忘れず、地道な努力を忘れず2連覇を目指しなさい」